

## 業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

### 公立大学法人国際教養大学の令和3年度評価結果の反映状況

令和3年度評価における指摘事項	評価項目	令和4年度の業務運営等への反映状況
<p>学生の確保については、コロナ禍に対応した学生募集の取組は評価されるものの、県内出身入学者数に係る目標が未達成となっており、県内入学者の増加に向けて更なる取組の強化が求められる。</p>	<p>I-2-(1)</p>	<p>○グローバル・セミナー入試の強化 県内高校生対象のグローバル・セミナー入試を中心に入試制度や実施方法等について、大学説明会や個別相談会において県内高校生に、また、県内高校49校を訪問して進路指導担当者に対し説明を行い、周知を図った。その結果、定員15名に対し56名が出願し、22名が合格・入学した。</p> <p>○広報活動の強化 秋田空港や秋田駅東西連絡通路における広告掲出に加え、FacebookやInstagram等のSNSを通じて情報発信を強化した。また、県内高校生向けに、進路説明会を12校（参加者数：102名）で行ったほか、業者主催説明会を5回（同53名）開催し、特別選抜試験についてきめ細かな情報提供を行った。</p> <p>上記の取組により、令和5年4月入学者向け入試では、秋田県出身学生の出願者数が増加（86名：前年度比＋6名）し、合計23名（グローバル・セミナー入試：22名、一般選抜試験：1名）が入学したほか、特別科目等履修生として県内出身者1名が入学した。また、令和4年度に特別科目等履修生として入学した県内出身者1名が、令和5年4月に2年次に編入した。</p>
<p>大学院学生の確保については、様々な広報活動に取り組んでおり、引き続き収容定員の充足に向けた取組が求められる。</p>	<p>I-2-(3)</p>	<p>○大学院説明会、授業見学会、個別説明会の実績 東京都内での対面形式だけでなく、オンライン形式を含めて大学院説明会を4回（参加者数：延べ73名）、授業見学会を6回（同18名）、個別相談（参加者数：延べ95名）を実施した。</p> <p>○現職教員の受入れ 英語教育実践領域において、秋田県教育委員会及び奈良県教育委員会から現職教員各1名が派遣され入学した。</p> <p>○広報活動の強化 大学院のパンフレットを日英両言語併記で作成・発行し、資料請求者や本学大学院の専門分野と関連する分野の学部を持つ他大学の関係教員に送付するなど、広報活動に努めた。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施を見送っていた関係他大学への訪問を再開した。</p> <p>上記の取組により、令和4年度に実施した選考における出願者数27名のうち、令和5年度に20名（4月入学：13名、9月入学：7名）が入学し、令和5年4月1日の在籍者数が67名と、研究科の設置以降初めて収容定員を充足した。</p>

## 業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

### 公立大学法人国際教養大学の令和3年度評価結果の反映状況

令和3年度評価における指摘事項	評価項目	令和4年度の業務運営等への反映状況
<p>学校教育への支援については、段階的に対面による活動を再開するとともに、オンラインを活用した交流活動も継続的に実施し、英語教育の向上に係る支援が実施されていることが評価される。今後、コロナ禍にあっても、より一層Web会議システム等を活用して、小・中学校等との交流活動を実施することにより、児童生徒が英語や異文化に触れる機会の増加や内容の充実が期待される。</p>	<p>Ⅱ-1-(1)</p>	<p>○小・中学校等との交流活動 新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で対面活動を再開し、小・中学校及び高校を中心に59回派遣するなど、英語教育の向上等に係る取組に協力した。また、訪問交流も26回受け入れ、大学紹介やキャンパスツアー、留学生等との交流活動を実施した。さらに、交流先の要望に応じてオンライン交流も引き続き活用し、学内外や海外に居住する学生・留学生と全国の小中高生の交流活動を計26回実施するなど、多様な形態で県内外の児童生徒の英語コミュニケーション能力の養成及び異文化理解の向上に対する支援を継続している。</p> <p><b>【実績】</b> 対面交流実施回数 85回（令和3年度：25回） オンライン交流実施回数 26回（令和3年度：43回） 計111回（令和3年度：68回）</p> <p>○イングリッシュビレッジの実施 イングリッシュビレッジも対面実施を再開し、学校単位で8回（参加者211名）開催したほか、イングリッシュビレッジのノウハウを活かした小学生向けの異文化理解教育プログラムを学校単位で1回（参加者18名）、対面で実施した。</p>